

令和3年度事業報告書

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

(1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供

(2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究

(3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信

の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会議との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

①令和3年度瀬戸内海環境保全月間の実施

環境省が毎年6月に実施する「環境月間」にあわせ、国、関係府県市、関係各種団体、関係企業などとの連携・協力のもとに、瀬戸内海の環境保全に関する広域的なキャンペーン活動を展開した。

期間：令和3年6月1日（火）から30日（水）までの1ヶ月間

主唱：公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

後援：環境省

実施主体：関係府県市、関係各種団体、関係企業等

実施内容：

- ・「瀬戸内海環境保全月間」の広報
- ・「瀬戸内海環境保全推進ポスター」の配布・掲出
- ・普及啓発用リーフレット・グッズ等の配布
- ・パネル・絵画・写真の展示
- ・環境保全に関する講演会、研修会等の開催、協力
- ・水辺、浜辺での自然・生物観察等「自然観察会」の開催、協力
- ・河川、海岸等のクリーンアップ、植樹等の地域美化活動の実施
- ・河川、海域での水質・生物調査、環境パトロールの実施

②瀬戸内海環境保全推進ポスター事業の展開(昭和52年度～)

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

ア 令和3年度瀬戸内海環境保全推進ポスターの配布・掲示

令和2年度に公募し、選定された最優秀作品を令和3年度瀬戸内海環境保全推進ポスターとして作成し、瀬戸内海環境保全月間に合わせて関係機関に配布して、瀬戸内海環境保全月間以降も広く掲示する。

なお、最優秀作品、優秀作品については定時総会で表彰する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で表彰者が出席できなかったため、入賞作品の紹介をした。

・配布枚数：5,000枚

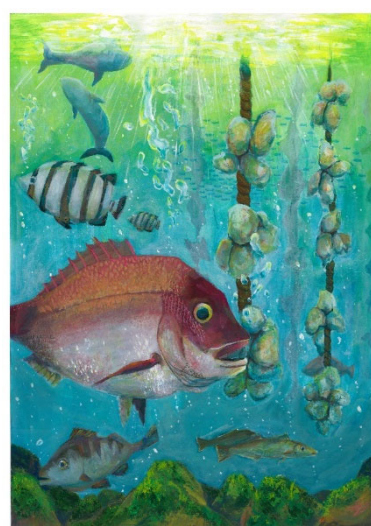
〔令和3年度瀬戸内海環境保全推進ポスター最優秀作品・優秀作品〕



最優秀賞 中桐 詩保美
(岡山県岡山市)



優秀賞 前田 知輝(小学生)
(徳島県吉野川市)



優秀賞 村上 桃花(高校生)
(広島県尾道市)

最優秀賞作品(環境大臣表彰)



中桐 詩保美 (岡山県岡山市 高校生)
最優秀賞



制作意図

手前に汚れた海、奥に綺麗な海を対比させて描きました。
ゴミを拾うスナメリや、汚れた海からきれいな海に逃げる瀬戸内海の魚たちに豊かな表情をつけました。
そうすることで見る人が楽しめて、問題について真剣に考えられるように工夫しました。

協会定時総会での入賞作品の紹介(ポスターの図の横に制作意図を掲示した。)

イ 瀬戸内海環境保全推進ポスター原画の展示（平成22年度～）

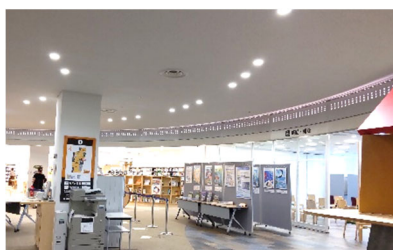
定時総会、瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会にあわせて原画展を実施するとともに、一般の方に一人でも多く瀬戸内海に関心を持ってもらうことを目的に協会が保有している瀬戸内海環境保全月間ポスター入選作品の原画を展示するとともにアンケートを実施し、環境保全の啓発を図った。

令和3年度瀬戸内海環境保全推進ポスター原画展の実施状況

期 間	開 催 場 所	所 在 地
R3. 5. 26	協会定時総会（ラッセホール）	神戸市中央区
R3. 6. 18～6. 21	さんちか夢広場	神戸市中央区
R3. 7. 7～7. 19	ブルメールHAT神戸 1 階	神戸市中央区
R3. 7. 27	瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会 （ホテルグランヴィア京都）	京都市下京区
R3. 10. 8～10. 17	あかし市民図書館	兵庫県明石市
R3. 11. 11	広島県公衆衛生大会	広島県安芸高田市
R3. 11. 19	瀬戸内海の環境保全に関する 衛生団体合同研修会	福岡県行橋市
R3. 12. 3～12. 22	呉市中央図書館	広島県呉市
R4. 2. 1～3. 6	広島県立図書館	広島市中区



さんちか夢広場での原画展



あかし市民図書館での原画展

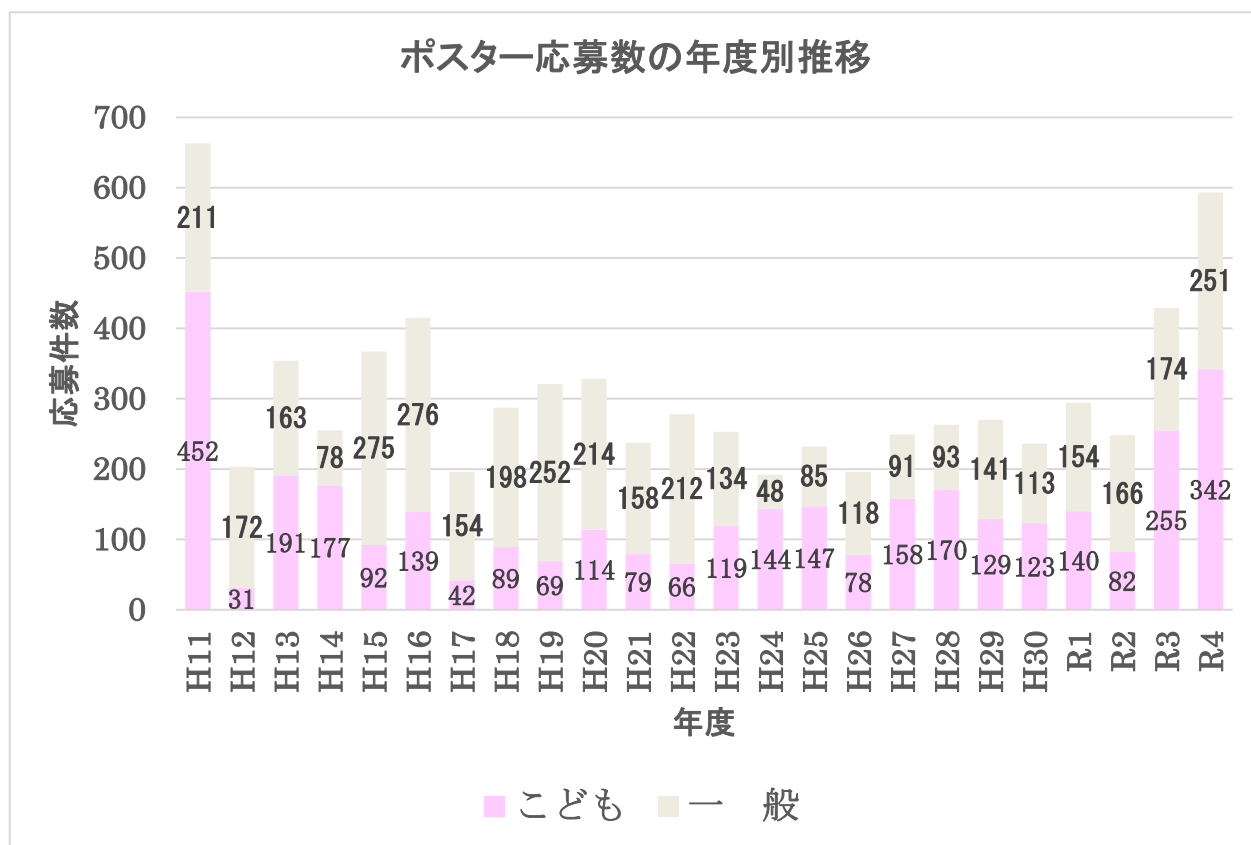


瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会での原画展

ウ 令和4年度瀬戸内海環境保全推進ポスター募集・選定（平成11年度～）

令和4年度瀬戸内海環境保全月間に向け、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・ 作品募集期間：令和3年6月1日（火）～11月30日（火）
- ・ ポスター選定委員会の開催：令和4年2月14日
- ・ ポスター応募数：一般部門 251 件 こども部門 342 件 総数 593 件



②瀬戸内海環境保全への支援

ア 「里海づくり」支援事業の展開(平成23年度～)

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

なお、令和3年度も令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、6月と9月の2回にわたって支援事業の募集を行った。

支援対象事業 ・自然観察会や子どもたちを対象とした体験的学習
・環境ボランティアの人材育成事業

支援府県市：10府県16市（元年度は13府県14市、2年度は11府県11市）

事業実施期間：令和3年7月1日（月）～令和4年1月31日（金）

イ 環境保全事業への支援（昭和52年度～）

環境衛生団体や漁業団体が取り組んでいる浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：5 環境衛生団体、8 漁業団体

事業実施期間 令和3年4月1日（水）～令和4年3月31日（水）

③環境保全研修の実施

ア 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施(平成10年度～)

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内法や環境技術等、瀬戸内海の新たな取り組みについて、研修を行った。

- ・ 日時：令和3年11月10日（水）～12日（金）
- ・ 場所：岡山県 岡山国際交流センター、ひなせうみラボ
- ・ 参加人数：20名（4府県12市2団体）
- ・ 講義：
 - 「瀬戸内海の海洋環境総論 ～世界情勢を視野に入れて～」
講師 広島大学 名誉教授 松田 治
 - 「瀬戸内海における環境政策～瀬戸法改正の背景と今後への期待～」
講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 浜名 功太郎
 - 「瀬戸内海における藻場・干潟の実態と役割」
講師 香川大学 教授 一見 和彦
 - 「日生の里海づくり～アマモ場再生の取り組み～」
講師 日生町漁業協同組合 専務 天倉 辰巳
 - 「人と海に学ぶ環境学習～生徒の意識の変容を通して～」
講師 備前市立日生中学校 講師 藤田 孝志
 - 「岡山県における水環境保全の取り組み」
講師 岡山県環境文化部環境管理課 主幹 後藤 真樹
 - 「備讃瀬戸（岡山県海域）における栄養塩類濃度の変遷と水産業」
講師 岡山県農林水産総合センター水産研究所 研究員 高木 秀蔵
- ・ 現地研修（視察）：
 - 視察 「頭島周辺海域～貸切船で海上視察～」等
説明：日生町漁協 天倉氏、日生中学校 藤田氏
- ・ 班別討議及び全体討議
 - 研修生を3つの班に分け、次の3つのテーマについて班別討議し、その後、全体討議を行った。
 - ①海域の栄養塩類管理の推進
 - ②藻場・干潟の保全・再生・創造の推進
 - ③漂流・漂着・海底ごみの発生抑制対策の推進



講義



講義



視察（カキの種付けの説明）



船上での視察



ワークショップ（班別討議）



ワークショップ（全体討議）

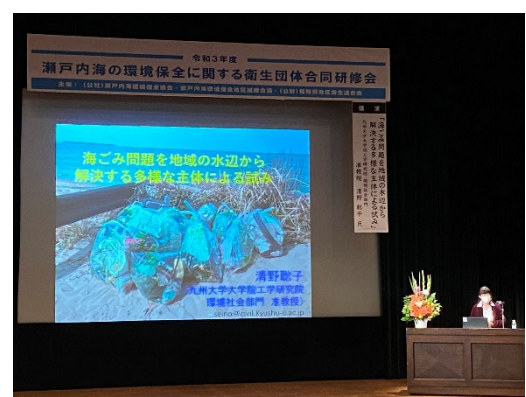
イ 瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催（昭和53年度～）

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携を継続・維持していくため、同団体の合同研修会を共同で開催した。

- ・ 主催：（公社）瀬戸内海環境保全協会、瀬戸内海環境保全地区組織会議、（公財）福岡県地区衛生連合会
- ・ 後援：福岡県、行橋市
- ・ 日時：令和3年11月19日（金）
- ・ 場所：行橋市文化ホール（福岡県行橋市中央1-9-3）
- ・ 参加人数：107名
- ・ 講演：「海ごみ問題を地域の水辺から解決する多様な主体による試み」
九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 生体工学研究室
准教授 清野 聡子
- ・ 体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動から
 - 1) 福岡県 ぼくたちの未来のために！「次の世代へ紡ぐ海辺」
社会福祉法人和泉会（行橋市）
 - 2) 広島県 鳴川海岸清掃状況・今後の課題等
廿日市市大野公衆衛生推進協議会（廿日市市）
 - 3) 北九州市 「原田川ビオトープほたるの里」のあゆみ
原田川ビオトープほたるの里（若松区）
 - 4) 広島県 全県共通重点メニュー「見てますよ！不法投棄抑止の地域づくり事業」実施要領の紹介
一般財団法人広島県環境保健協会（広島市）



開講式



講演

ウ 瀬戸内海的环境保全に関する賛助会員等研修会の開催（平成6年度～）

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海的环境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施する。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い決定した。

1) 第1回研修会（見学）

コロナ禍の影響で見学先の受入態勢が整わないため、中止とした。

2) 第2回研修会（座学）

テーマ：脱炭素社会の構築に向けた企業の取り組み

- ・ 日時：令和4年2月22日（火）13:30～17:00
- ・ 場所：三宮研修センター
- ・ 開催方式：Web参加が可能なハイブリッド方式
- ・ 趣旨：

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。カーボンニュートラルの達成のためには温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があり、企業は再生エネルギーの技術革新やエネルギーの効率化を図るなどの取り組みが求められている。

このような背景のもと、「脱炭素社会の構築に向けた企業の取り組み」をテーマに研修会を開催し、現状や最近の動き、そして企業の取り組みについて参加者の理解を深め、活動の活性化を図ることを目的とする。

- ・ 内容：

基調講演

脱炭素社会に向けて、企業に期待すること

飯野 暁（環境省大臣官房 環境計画課）

講演

企業と市民の連携を通じた脱炭素社会への取り組み

小嶋 公史（地域環境戦略研究機関(IGES)関西研究センター 副室長）

ENEOSの水素社会実現に向けた取り組み

中川 幸次郎（ENEOS(株)水素事業推進部国内水素サプライチェーングループ GM）

脱炭素社会に向けた大崎クールジェンプロジェクトについて

細越 俊哉（大崎クールジェン(株)総務企画部長）

エ 特別講演会の開催

令和3年度定時総会の終了後、同じ会場で特別講演会を開催した。

（Web参加が可のハイブリッド開催）

- ・ 日時：令和3年5月26日（水）15:30～17:00
- ・ 場所：ラッセホール
- ・ テーマ：栄養塩から高次生態系までを包括した統合モデル構築のための課題
- ・ 講師：愛媛大学沿岸海洋科学研究センター 講師 吉江 直樹
- ・ 参加人数：会場参加 21名、Web参加 85名 計 106名

④環境保全事業への参加・協力

ア 会員等主催事業への参加・支援

会員等が主催する環境イベントで共催、後援を行ったり、瀬戸内海の環境

保全に係るパネル（里海・海ごみ等）の貸し出しや展示等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努める。

イ) ひょうごエコフェスティバル2021(令和3年10月16日～17日)に里海、海ごみ等のパネルを出展した。

（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、環境クイズは実施せず。）

ロ) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和3年度瀬戸内海研究フォーラム in 福岡（Webによるオンデマンド開催：令和3年10月1日～10月22日）に協賛し、Webによるオンデマンド開催を支援した。

ハ) 広島県公衆衛生大会の後援（令和3年11月11日）

ニ) 環境と健康のポスター・標語コンクールを（一財）広島県環境保健協会と共催し（令和3年11月11日）、特別賞「瀬戸内海環境保全協会長賞」を授与した。

ホ) ひょうごの豊かで美しい海に向けた活動報告会の兵庫県との共催（令和4年3月17日：広報、ハイブリッド対応の支援）

ヘ) パネルの貸し出し、電子データの使用許諾

団体名	目 的	時 期	区 分	内 容
広島県	今から学べる！ひろしまのSDGsでの展示	5/7～5/9	貸出	海ごみのパネル（1枚）
福山市	福山市リサイクルプラザ内でのパネル展示	6/1～8/31	貸出	里海、スナメリ、海ごみのパネル（18枚）
愛媛県	愛媛県庁内でのパネル展示	常時展示	電子データの使用許諾	海ごみのパネル（4枚）
（一財）広島県環境保健協会	各種環境啓発活動会場での展示（環境保健夏季大学、広島県公衆衛生大会等）	7/7～3/31	電子データの使用許諾	里海、スナメリ、海ごみのパネル（14枚）
福山市	電子データをパネルにして、展示する。		電子データの使用許諾	里海、スナメリ、海ごみのパネル（14枚）

ト) パネル等の新規作成

次のパネル等を新規作成した。

- ・スナメリってどんな生き物？
- ・鳴門海峡ではなぜ渦潮が発生するの？
- ・湾灘木製パズル

イ 環境NGO・NPO等との連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行う。

イ) 後援名義使用の承認

- ・3海峡クリーンアップ大作戦（鳴門海峡・紀淡海峡・明石海峡、11月6日）の後援

⑤瀬戸内海の理解と魅力向上事業（令和3年度：新規）

令和2年度に終了した海文化事業に替わり、Web 対応可能な環境学習用テキストの素材を作成した。

- ・素材作成を特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議に委託（令和3年7月1日）
- ・第1～3回制作委員会（令和3年8月6日、11月18日、12月16日）
- ・素材作成状況を研究会議企画委員会で報告（令和4年1月28日）
- ・素材作成状況を協会企画委員会で報告（令和4年2月15日）
- ・素材作成状況を協会参事・事務局長並びに担当課長会議で報告（令和4年3月3日）
- ・素材の納品（令和4年3月31日）

⑥瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

ア 瀬戸内海再生に向けた取組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、平成16年から瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取組みを進めた。

イ 国に対する提案（昭和52年度～）

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

- ・提案日：令和3年7月16日（金）～7月27日（火）
- ・提案先：環境省（25人）、水産庁（12人）、財務省（22人）、国土交通省（28人）計87人

（提案事項）

・施策の推進

- (1)瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (2)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (3)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）及び活性化
- (4)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな栄養塩類の管理手法や順応的管理の考え方に基づく取組の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (5)藻場、干潟等の浅場の整備、環境配慮型護岸の整備、底質の改善、赤潮防止対策の推進、海ごみ（漂着、漂流及び海底ごみ）対策の推進など海域の環境の

保全・再生及び創出

- (6)瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (7)水質浄化・物質循環に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

・調査研究

- (8)瀬戸内海の実環境データの収集とデータベース機能の充実（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）及び瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (9)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
- (10)藻場・干潟の機能と造成効果に関する調査研究
- (11)栄養塩類の働きを踏まえた高次生態系モデルの構築に関する調査研究
- (12)地球温暖化や高蓄積性・難分解性の有害化学物質及び物質循環低下の影響並びに栄養塩類管理、生物多様性・生物生産性確保の観点でその影響を予測する瀬戸内海の実環境モデルの開発に関する調査研究
- (13)施肥及び下水処理場の管理運転等による栄養塩類供給手法が海藻や貝類等の生物の成長及び水産資源等に与える影響に関する調査研究
- (14)海ごみの発生実態、効果的な流入防止対策、発生抑制への取組みに関する調査・研究
- (15)瀬戸内海研究会議の調査研究及び普及・教育活動に対する支援

ウ 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めている。

また、令和3年度は、次の措置を行っている。

- ・ 賛助会員が瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムに参加する際の旅費の半額補助

エ 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行った。

- ・ 瀬戸内海研究フォーラム in 福岡（Webによるオンデマンド開催：令和3年10月1日～10月22日）に協賛し、Webによるオンデマンド開催を支援した。
- ・ 瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（令和3年12月8日（水））の後援、開催協力を行った。

オ 国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について協力を行っ

た。

- ・第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（令和3年9月6日（月）～9日（木））のオンデマンド開催への協力

(2) 情報共有・発信事業

瀬戸内海的环境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有する。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布(平成6年度～)

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに会員限定で掲載する。

- ・発行回数：年2回

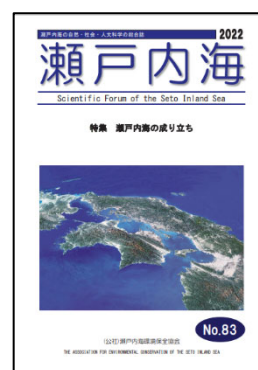
第82号：令和3年9月発行 350部

特集 瀬戸内海的环境保全と管理に向けた取組

第83号：令和4年3月発行 350部

特集 瀬戸内海の成り立ち

- ・無償配布：会員団体（冊子）
- ・有償配布：年間購読者等（冊子）
年間購読料 2,500円（税込み）



「瀬戸内海」第83号

②資料集「瀬戸内海的环境保全－令和3年度版－」の作成(昭和53年度～)

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海的环境保全－令和3年度版－」を作成しホームページに掲載した。（1年間は会員のみにアクセスを限定）

③協会ホームページによる情報の発信（平成10年度～）

瀬戸内海的环境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、会員の利便性向上のための会員専用ページの設定など協会ホームページのリニューアルを行っている。

④メールマガジンによる情報の発信(平成23年度～)

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を行う。

2 瀬戸内海的环境保全・創造に関する調査・研究事業

(1)調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省等からの受託など外部資金の獲得を目指し活動を行い、次の事業をいであ(株)と共同で受託した。

①令和3年度瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた栄養塩類管理方策検討業務

(平成27年度～ 環境省委託)

瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域では、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減等の取組が進められた結果、その水質は全体として改善傾向にある。一方で、赤潮や貧酸素水塊の発生といった問題も依然として確認されており、また、「豊かな海」の観点から、生物多様性・生物生産性の確保等の新たな課題への対応が求められている。

このような状況下、令和3年6月に瀬戸内海環境保全特別措置法が改正され、新たに次の事項を導入して、瀬戸内海における生物多様性・水産資源の持続的な利用の確保を図ることとなった。

- ・ 栄養塩類管理制度の創設
- ・ 自然海浜保全地区の指定対象の拡充
- ・ 海洋プラスチックごみを含む漂流ごみ等の発生抑制等に関する責務規程

そのため、徳島県紀伊水道（徳島空港地先）を栄養塩類管理のケーススタディとして、栄養塩類管理の検討や実施に資するため、下記の項目を調査、検討する。

<調査検討項目>

- (1)徳島県紀伊水道（徳島空港地先）及びその周辺の現地調査及び現状把握に関すること
- (2)栄養塩類等の要因が考慮できるモデルの構築及び評価の実施に関すること
- (3)簡易な予測ツールの開発に関すること
- (4)栄養塩類管理の手順の取りまとめに関すること
- (5)その他瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた栄養塩類管理方策検討に関する重要事項

本業務においては下記の委員で構成される検討会が設置されている。

(委員長：広島大学教授 西嶋渉氏、委員：(国研)水産研究・教育機構 水産技術研究所 阿保勝之氏、他5名、関係機関として徳島県の水産、環境、下水担当各1名)

第1回検討会（令和3年9月10日（金） Web開催）

議題は次のとおり

- (1)本年度の検討の進め方について
- (2)徳島空港地先の現状把握及び現地調査について

- (3) 栄養塩類等の要因が考慮できるモデルの構築及び評価の実施方針について
- (4) 水質の簡易な予測ツールについて

第2回検討会（令和4年1月12日（水）徳島市内でハイブリッド開催）

議題は次のとおり

- (1) 徳島空港地先の現地調査結果について
- (2) 栄養塩類等の要因が考慮できるモデルの構築及び評価の実施方針について
- (3) 水質の簡易な予測ツールについて
- (4) 栄養塩類管理計画策定に関するガイドライン(案)について

第3回検討会（令和4年3月2日（水）Web開催）

議題は次のとおり

- (1) 徳島空港地先の現地調査結果について
- (2) 栄養塩類等の要因が考慮できるモデルの構築及び評価の実施方針について
- (3) 栄養塩類管理計画策定に関するガイドライン(案)について
- (4) 令和3年度瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた栄養塩類管理方策検討業務報告書(案)について

※: 本業務は令和3年6月の瀬戸内法改正で創設された「栄養塩類管理制度」の施行に関与していることから、第2回以降の検討会はこれまでの関係機関(13府県)がオブザーバーとして参加できるようにした。

②令和3年度栄養塩類供給のための取組促進調査業務（令和3年度：兵庫県委託）

瀬戸内海の栄養塩類濃度は大幅に低下し、生態系維持水質の確保が難しい状況となっている。豊かで美しい瀬戸内海を再生するためには、陸域からの栄養塩類のさらなる供給が必要であり、そのような課題を受け、令和3年6月に改正された瀬戸内海環境保全特別措置法では、海域への栄養塩類供給が可能となる栄養塩類管理制度が創設された。

そこで本業務では、同制度に基づき策定予定の栄養塩類管理計画に必要な栄養塩類増加措置が環境に及ぼす影響について、適切な予測・評価手法を検討した。

また、検討した手法によりシミュレーションを行った。

Ⅱ 一般事項

1 会議等の開催

(1) 総会

- ① 定時総会（令和3年5月26日（水） ラッセホール）
 - ・ 令和2年度事業報告及び決算
 - ・ 会費の額

- ・ 国に対する提案
- ・ 令和3年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議した。

① 第18回理事会（令和3年5月13日（木） 三宮研修センターでハイブリッド開催）

- ・ 専門委員の委嘱
- ・ 定時総会付議事項

② 第19回理事会（令和4年3月8日（火） 神戸市勤労会館でハイブリッド開催）

- ・ 令和3年度事業実施状況
- ・ 令和4年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

第1回企画委員会（令和3年11月26日（金） 三宮研修センターでハイブリッド開催）

- ・ 令和3年度事業実施状況
- ・ 令和4年度事業計画案（素案）など

第2回企画委員会（令和4年2月15日（火） 三宮研修センターでハイブリッド開催）

- ・ 令和3年度事業実施状況
- ・ 令和4年度事業計画（案）及び収支予算書（案）など

② 編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行う。

第1回編集委員会（令和3年10月5日（火） 三宮研修センターでハイブリッド開催）

- ・ 「瀬戸内海」82号（令和3年9月発行）の編集結果について
- ・ 「瀬戸内海」83号（令和4年3月発行予定）の原稿収集について
- ・ 「瀬戸内海」84号（令和4年9月発行予定）の特集について

※:83号以降から、毎号、瀬戸内海プロジェクト紹介で「瀬戸内オーシャンズX」を掲載することとした。

第2回編集委員会（令和4年3月4日（金） 三宮研修センターでハイブリッド開催）

- ・ 「瀬戸内海」83号（令和4年3月発行）の編集結果について
- ・ 「瀬戸内海」84号（令和4年9月発行予定）の原稿収集について
- ・ 「瀬戸内海」85号（令和5年3月発行予定）の特集について

③賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

令和3年度賛助会員部会

(令和3年9月17日(金) 三宮研修センターでハイブリッド開催)

・平成3年度賛助会員に関する事業等について

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議

(令和4年3月3日(木) 三宮研修センターでハイブリッド開催)

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

2 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、賛助会員部会委員を委嘱した。

(1) 企画委員 (13 名)

奥田孝史	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
山本竜一	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
岡田誠司	広島県環境県民局環境保全課長
小蓑雅也	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
中田高史	大分県生活環境部環境保全課長
松井直樹	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
植木啓次	神戸市環境局環境保全部担当課長
阪永憲哉	明石市市民生活局環境室環境保全課長
藤井厚匡	福山市経済環境局環境部環境保全課長
渡辺英典	山口県漁業協同組合参事
横山大志	愛媛県漁業協同組合参事
上田康二	(一財) 広島県環境保健協会地域活動支援センター長
河本英一	(公社) 山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員 (10名)

井上尚和	(株)神戸製鋼所安全・環境部担当部長
小蓑雅也	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
浜名功太郎	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
佐山 浩	関西学院大学総合政策学部教授
山本竜一	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長(知事・市長会議事務局)
反田 實	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
住田典子	(一財) 広島県環境保健協会地域支援課長
藤原建紀	京都大学名誉教授
松村保孝	関西電力(株)火力事業本部 火力運営部門発電グループ チーフマネジャー
鷺尾圭司	元国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 理事長

(3) 賛助会員部会委員（7名）

松村保孝	関西電力(株) 火力事業本部火力運営部門 発電グループ チーフマネージャー
小西達也	川崎重工業(株) 総務本部環境・エネルギー管理部 基幹職
井上尚和	(株)神戸製鋼所 安全・環境部 担当部長
竹谷建吉	四国電力(株) 立地環境部環境グループ グループリーダー
小野 健	いであ(株)大阪支社 環境技術部長
磯野直博	大塚製薬(株) 徳島本部環境課長
佐守広志	山口県瀬戸内海環境保全協会 (株)トクヤマ 徳山製造所 環境安全部環境管理課長)